

2 ふるさと教育の充実

(1) プログラム開発の背景

北海道の特色の一つとして、まず広大で恵まれた自然環境が挙げられる。また、我が国最大の食料生産地たらしめる豊かな農業、縄文時代から続く歴史的文化、アイヌの人たちが築き上げてきた文化や明治の開拓期における文化など、多様で魅力的な特色をもつ。これら自分たちの住む地域の豊かな自然環境や歴史、伝統、文化、産業等に理解を深め、郷土への誇りと愛着を育み、これからの北海道を担う人づくりが求められている。

このことから、道立青少年体験活動支援施設においても、多様な地域資源を活用した体験活動を通して、子どもたちの地域に対する愛着を深め、地域の活性化について考えることができる人材の育成を目指したプログラムを開発するものである。

(2) 道及び道教委の主な関連施策

・北海道教育総合大綱 基本方針Ⅰ 新たな社会を生きる力を育む「ふるさと教育の充実」

縄文文化やアイヌ文化、北方領土、地域の伝統文化、先人の功績など、本道の歴史・文化への理解を深め、郷土への誇りと愛着を育むふるさと教育の充実を図ります。

・北海道教育推進計画 施策項目9「ふるさと教育の充実」

本道の地域課題等を含め、ふるさとに対する興味・関心を持ち、地域社会の一員としてまちづくりにかかわる人材を育てる施策を進めるとともに、アイヌの人たちの歴史や文化等に関する指導や北方領土に関する指導など、ふるさと教育の充実を図ります。

・第3次北海道生涯学習推進基本構想 視点3 1-(1)「環境に関する学習の推進」

北海道のよさである恵まれた自然環境についての学習や、次の世代に引き継いでいく行動力を身に付けるための環境教育が必要です。

・第3次北海道生涯学習推進基本構想 視点3 1-(2)「食に関する学習の推進」

北海道は我が国最大の食料生産地域であることから、多様で豊富な食料を生産する地域の特色を生かした食育の推進が可能であり、体験活動や正しい知識を学ぶ機会の充実が必要です。

(3) 各施設実施プログラムの概要

砂川	ネイパルクラブ	
令和3年2月20日(土)～21日(日) (1泊2日)	ワカサギ釣り、ニュースポーツ、SDGs ワークショップなど	
深川	ネイパル深川 ふるさとキャンプ	
令和2年12月20日(日) (日帰り)	アイヌ文化クイズラリー、アイヌ文様コースター作りなど	
森	われら〇〇発見隊	
令和3年1月30日(土)～31日(日) (1泊2日)	石器づくり、キャンドルアート、縄づくりなど	
北見	ネイパル探検隊	
令和2年10月31日(土)～11月1日(日) (1泊2日)	北網圏北見文化センター・北見ハッカ記念館・蒸留館・オホーツクウッドピア等の見学・体験学習など	
足寄	とち森の学校	
令和2年7月4日(土) (日帰り)	森林散策、森遊び、間伐材を利用したバッグタグ作りなど	
厚岸	アイヌ文化にふれよう	
令和2年10月31日(土)～11月1日(日) (1泊2日)	アイヌ文様刺繍、弓矢あそび、ムックリ演奏など	

ネイパルクラブ

1 事業のねらい

地域の教育資源を活用し、環境に対する興味・関心を高めると共に、新しい地域文化を創造できる持続可能な社会の創り手を育成する

2 事業の概要

- 期日 R3.2.20(土)～21(日) 1泊2日
- 対象 小学4年生～中学生
- 人数 29名
- 場所 ネイパル砂川
- 協力 砂川遊水地管理棟・北海道開発教育ネットワーク

3 プログラム

	9:00	10:00	11:30	13:00	16:15	17:15	18:30	20:00	22:00
2/20 (土)			受付	活動1 氷上ワカサギ釣り ※悪条件の場合は スノーシューハイク	出合い の集い	夕食	活動2 SDGsって何？ ゲームを通して、社会 課題を見つめてみよう	入浴・ 自由	就寝
2/21 (日)	起床・ 朝食	活動3 ニュースポ ーツ	活動4 SDGs ワークシ ョップ	ふりか えり	解散				

4 ねらいを達成するための活動の工夫

- 地域を見つめる自然体験活動
 - ・近隣でできるが、各家庭では機会の少ない自然体験活動を行うことで、地域文化を見つめ、ふるさとへの愛着が高まるようにした。
 - ・氷上での活動を通して、昨年度の氷の厚さと今年度の氷の厚さを比較させるなどして、気候変動に関心を向けるようにした。
- SDGsについて学ぶアクティビティ
 - ・北海道開発教育ネットワーク (D-net) の指導によるすごろくゲームを通して、SDGsについて学びを深め、学んだことを元に参加者で話し合いながら、オリジナルのすごろくをつくることで、日常的な環境保全への活動につながるようにした。

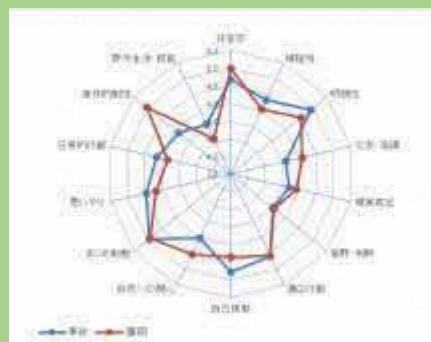


地域でできる自然体験



SDGsを学び、日常につなげる

5 事業の評価



- IKR 調査による変化
 - ・「野外生活・技能」「自己規制」0.2P 向上
 - ・「身体的耐性」は0.5P、「交友・協調」は0.2P 低下
- 参加者の声
 - ・うちの近くでワカサギ釣りができて、たのしかった。
 - ・プラゴミを減らすなど、自分でできるエコ活動をやりたい。

6 ねらいを踏まえた成果と課題

- 「野外生活・技能」が向上したことから、ワカサギ釣り等の活動を通して、自然体験活動に対する興味関心が高まったものと考えられる。
- 「交友・協調」が低下したことから、アクティビティにあわせ、グループメンバーを入れ替えるなど、より多くの参加者と交流できるように配慮する必要である。



企画のポイント

環境保全に関する団体や専門家との協働による、体験的・系統的に学ぶ場の設定